

GLP ALFALINK相模原Ⅳプロジェクト

GLP ALFALINK SagamiharaⅣ Project

No. 15-029-2022作成

新築
物流施設

発注者	相模原4ロジスティック特定目的会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB		
設計・監理	東急建設株式会社一級建築士事務所		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携		
施工	東急建設株式会社東日本建築支店		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他		

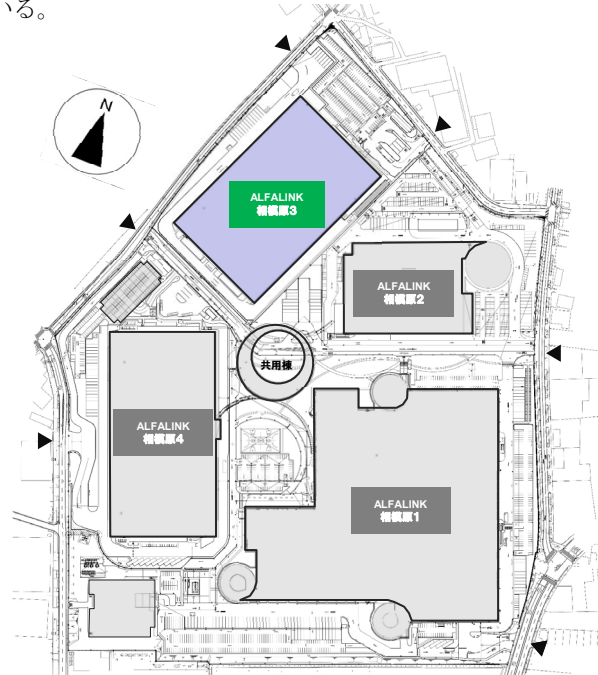
地域に溶け込む環境配慮型物流施設

■計画概要・コンセプト

GLP ALFALINK相模原Ⅳプロジェクト(現:ALFALINK相模原3)は、神奈川県相模原市に建つ10万400㎡のBTS型大型物流施設である。将来対応などの高いフレキシビリティを確保しており、躯体のプレキャスト化・全館LED照明の採用など環境配慮を行っている。ALFALINK相模原の敷地中央にある共用棟へのアクセスを考慮して歩廊を設置することで、敷地全体へ人々の動線を誘導できる計画としている。



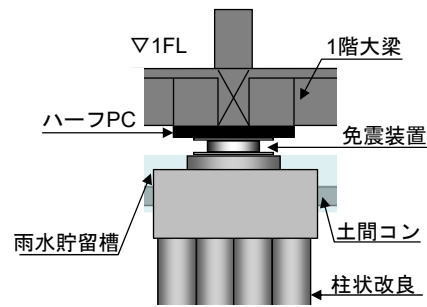
ALFALINK相模原 鳥瞰写真



GLP ALFALINK相模原Ⅳ 内観写真

■免震構造

基礎梁を設けず、土間コンで基礎を連結する基礎免震構造を採用している。また、地下に計画される免振ピットは雨水貯留槽として利用することで、空間を有効利用している。



免震構造概念図

■Pca (プレキャスト) 造

建物の構造は、品質向上も図れることからプレキャストにより製作し、型枠の使用量を削減する計画としている。4階は天井梁を鉄骨で計画しており、解体時には梁材を再利用して使用することができる。



プレキャスト造イメージ図

■景観への配慮・交通負荷抑制

建物北側には目隠しルーバーで覆った設備バルコニーを設けることで直接室外機などが見えないように配慮した。敷地内の他建物と、外装色を統一し道路境界際には敷地全体で統一感のある植栽を選定することで景観への配慮を行っている。



GLP ALFALINK相模原Ⅳ 北東側外観写真

■交通負荷抑制

敷地内には適切な量の駐車スペースを確保し、建物ごとに出入口と駐車場・駐輪場を設けることで、交通負荷低減のための配慮を行っている。

■BCP対応

地震などの災害対策として、建物構造面ではPCaPC工法および免震構造を採用している。災害時でも、物流機能を継続できる計画である。

■倉庫内空調

倉庫内に大型シーリングファンを設けることで、倉庫内部の大空間を効率的に換気できるようなシステムとした。24時間の稼働が想定されるため、作業する人のいる空間が常に快適な場所となるような配置を検討した。



大型シーリングファンイメージ

■ZEB

LEED GOLDと共にZEBを取得。

屋根には全面的に太陽光パネルを設置。倉庫内の使用電力の一部として利用される。

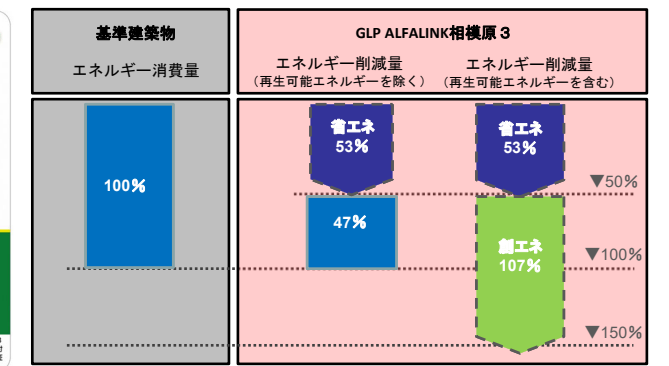


太陽光パネルイメージ



BELS認証 (ZEB取得)

エネルギー消費量削減の達成状況



建築物省エネ法
達成基準値

削減量53%
ZEB Ready達成

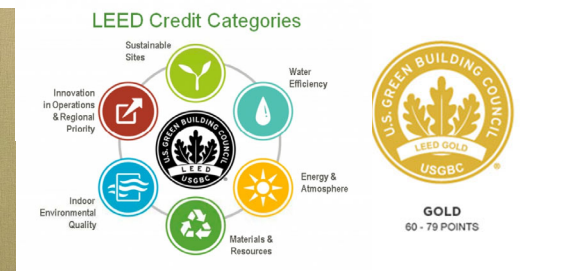
削減量160%
[ZEB] 達成

■LEED Gold取得

ALFALINK相模原の敷地内に建つ建物について、LEEDを取得することとなったので、着工後からLEED Goldの取得に向けた検討を開始した。環境に配慮したエコリーフマークの内装材の使用、CO2センサーの設置等の設置により、Platinumに次ぐGoldランクでの認証を得た。



CO₂センサーイメージ



LEED GOLD 取得

設計担当者

統括: 宮島孝之/建築: 高橋敦人、朝倉亮、田頭佑子/構造: デロイトトーマツ株式会社、電気設備/森章浩、空調設備/渡邊雄介

建物データ	所在地	神奈川県相模原市	省エネルギー性能	CASBEE評価	100 S 3.0 A 1.5 BEE=1.0 B' 0.5 C 0 Q 50 49 31 L 50
竣工年	2021年	BPI (モデル建物法)	0.76	Aランク	
敷地面積	49,831㎡	BEI (モデル建物法)	0.53	BEE=1.6	
延床面積	100,421㎡	LCCO2削減	21%	2016年度版	
構造	PC造(PCa造) 一部S造	ZEB取得		第三者認証	
階数	地上4階	LEED Gold取得			

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2 耐用性・信頼性 (制御装置の導入、受水槽の複数設置)
- Q2. 3 対応性・更新性 (階高3.9m以上、構造部材や仕上げ材を痛めることなく電気配線が更新可能)
- LR1. 4 効率的運用 (BEMSの使用)
- LR2. 1 水資源保護 (節水コマ及び節水型便器の採用)
- LR3. 1 地球温暖化への配慮 (LCCO2排出削減率 21%)
- LR3. 2 地域環境への配慮 (適切な量の駐車スペースを確保している)